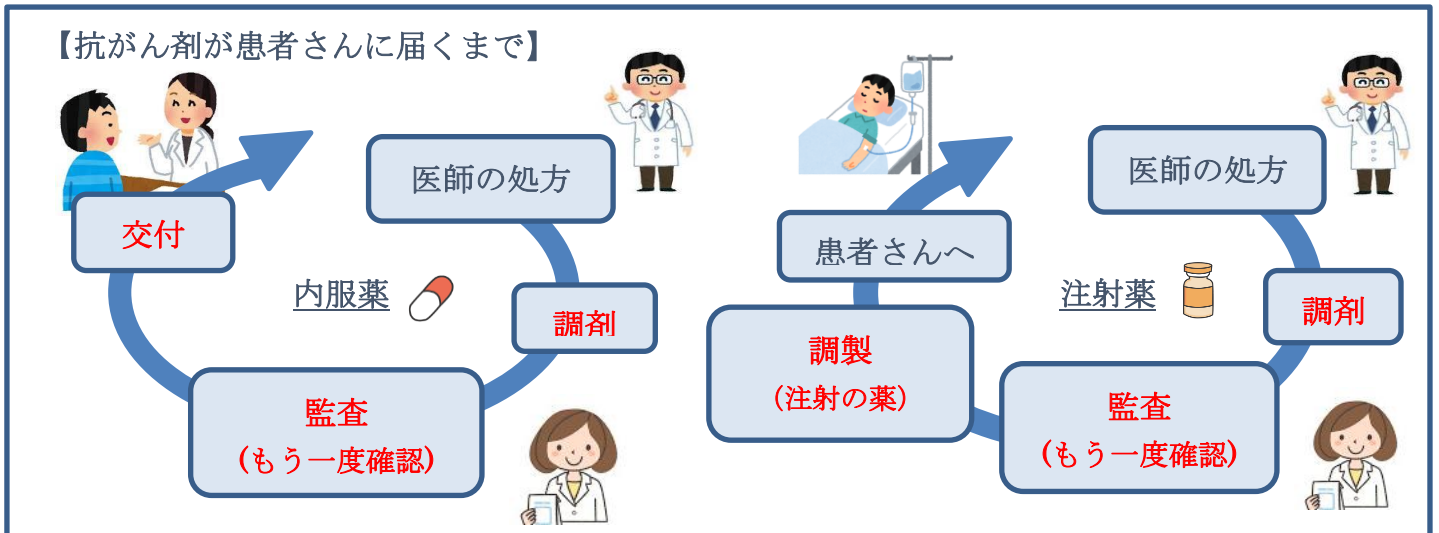


抗がん剤を安全に投与するために 薬剤師の関わり



【医師の処方】

患者さんと相談の上、医師は抗がん剤を処方します。

【調剤】

薬剤師は以下の確認を行い調剤をします。

- ☑投与量が適切か（採血結果を参照）
- ☑休薬期間が適切にとられているか
- ☑休薬の必要はないか（採血結果を参照）

また、必要に応じて医師に問い合わせを行います。

【監査】（調剤されたものをもう一度確認する）

調剤者とは異なる薬剤師が処方箋、チェックシート、薬剤を確認し、適切な処方であるか、正しく調剤されているか確認します。

【混合調製】（注射の薬）

注射の薬では調製が必要です。処方通り正しく、安全に調製しています。調製を行う前に採血結果を見て、治療が可能かどうか最終確認をします。

投与量よし！



投与量・お休み期間確認

採血データの確認
副作用確認

調剤

監査

混注前

混注後

別の薬剤師が再度確認
正しくお薬が準備されているか確認

異物が入っていないか確認
はかりとった量が正しいか確認

患者さんへ

【例】 アブラキサン(weekly)療法

治療スケジュール：1コース1週間

これを繰り返します
1コース目 → 2コース目

薬剤名	効能	投与経路	投与時間	1	...	8日目	...
デキサート注 +生理食塩液	吐き気止め	点滴	15～30分				
アブラキサン +生理食塩液	治療薬	点滴	60分				

お休期間は十分か

身長・体重は変わっていないか
採血結果は問題ないか
副作用は出ていないか

投与量は適切か
 今日の治療は可能か

項目	単位	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査
ヘモグロビン	g/dL	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5
ヘマトクリット	%	37.0	37.0	37.0	37.0	37.0	37.0	37.0	37.0	37.0
赤血球数	10 ¹² /L	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
白血球数	10 ⁹ /L	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
血小板数	10 ⁹ /L	150	150	150	150	150	150	150	150	150
尿素窒素	mg/dL	10	10	10	10	10	10	10	10	10
クレアチニン	mg/dL	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
カルシウム	mg/dL	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5
アルカリホスファターゼ	U/L	100	100	100	100	100	100	100	100	100

【交付】

内服のお薬は窓口で薬剤師によりお薬をお渡ししています。

採血データと治療可能な基準値を照らし合わせる

その際、チェックシートをもとに患者さんへ副作用状況を確認します。必要に応じて、副作用対策として医師に処方提案をしたり、次の確認事項として記録を残します。



吐き気はありませんか？

- 熱はないですか？
- 動いた時にドキドキしませんか？
- 下痢はありませんか？
- 手足のむくみはありませんか？
- 吐き気はありませんか？
- 口内炎はできていませんか？
- 咳は出ませんか？
- 痺れはありませんか？
- 皮膚は乾燥していませんか？

【入院中の抗癌がん剤治療】

入院中は抗癌がん剤治療について薬剤師が事前に説明を行います。

副作用やその対策などご不明な点も気軽にお聞きください。

治療開始後の体調変化も確認し、少しでも安心して治療が受けられるよう努めています。



食欲はありますか？



この患者さんのことです。。。

薬剤部は、安全、安心な薬物治療を提供します。